

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	3-3-4		事業名	地域に密着した雪処理の推進
担当	建設局管理部雪対策室事業課 尾崎 211 - 2662			
全体計画（当初）				
事業内容	パートナーシップによる冬期生活環境の充実を図るため、市民・企業・行政のそれぞれが役割を分担し連携しながら生活道路の排雪を進めるとともに、地域から発生する雪をその地域内で処理するための地域密着型の雪処理施設の整備を推進する。		＜年度別の事業内容＞	
			・パートナーシップによる生活道路の排雪レベルUP 排雪延長距離の増 (H15)1,023件 (H18)1,100件 27件増 52件増 77件増 ・地域密着型雪処理施設の整備 施設整備 (H16)月寒公園内 (H17)伏古公園北側隣接地	
事業内容 (量・場所・規模等)	平成16年度事業内容（決算）		平成17年度事業内容（決算）	
	・地域密着型雪処理施設整備(月寒公園) 豊平区月寒公園内において、公園内を通過する下水道幹線に投雪口を設け、未処理下水の持つ熱エネルギーを活用した雪処理施設を整備した。 シーズンあたり、約3万m ³ の雪処理を見込んでいる。 ・パートナーシップ排雪 【対H15比】98件増(1,121件)		・地域密着型雪処理施設整備(伏古公園北) 東区伏古公園北側隣接地(下水道管路用地)において、下水道幹線に投雪口を設け、未処理下水の持つ熱エネルギーを活用した雪処理施設を整備した。 シーズンあたり、約3万m ³ の雪処理を見込んでいる。 ・パートナーシップ排雪 【対H15比】147件増(1,170件)	
事業内容 (量・場所・規模等)	平成18年度事業内容（決算）		評価（成果）	
	・パートナーシップ排雪 【対H15比】68件減(955件) 平成18年度は暖冬、降雨により取り消し件数が多かった。		・H17からH18年度については、対H15年比68件減と計画を大きく下回り、215件の減少となった。これは、暖冬、降雨による積雪深が少なく、取り消し件数が多かった。このように、除雪事業は気象に大きく左右される。	
課題				
パートナーシップ排雪は、地域からの申請により実施するものであり、申請件数は増加傾向にあるが、今冬のように気象に大きく左右される事業である。 また、地域が負担する金額は一定額としているため、大雪などにより排雪量が増加すると、市の負担額が大きくなる。予算上は地域と市の負担割合は5:5であるのに対し、実際は3:7(大雪時には2:8)となっており、制度の見直しについて市民との議論の中で検討していく必要がある。				
19年度以降の方向性・事業の予定				
地域密着型雪処理施設については、アクセスサポロ駐車場の19年度供用に向け、取り組みを進める。 パートナーシップによる排雪については、市民要望の高い生活道路の排雪作業であるため、引き続き事業を継続するとともに、制度の見直しを含め市民との議論を交えて検討を進める必要がある。				

